第七次前橋市総合計画

MAEBASHI DREAMS → 2027

新しい価値の創造都市

市民一人ひとりが個性と能力を生かし、
個々に輝くことにより
新しい前橋らしさを創造するまち

前橋市

計画改訂の趣旨

前橋市では、目指すべきまちの実現に向けて、その方向性を示す「羅針盤」を地域全体で共有することが必要であると考え、まちづくりの基本理念であるビジョンを「めぶく。～良いものが育つまち（Where good things grow.）～」とし、将来都市像を『新しい価値の創造都市・前橋』とする第七次前橋市総合計画（以下、「総合計画」という。）を2018年3月に策定しました。

総合計画では、『新しい価値の創造都市・前橋』の実現に向けて、「認め合い、支え合う」、「つながり、創造する」、「未来への責任を持つ」という3つの行動指針により、「教育・人づくり」、「産業振興」など6つの施策を柱に掲げて、人口減少、少子高齢化の進展等を前提に、選択と集中の考え方から、重点的に取り組む事業を選定しています。

また、総合計画の進行管理では、外部有識者の意見を取り入れた行政評価の手法を用いて、事業効果を確認し、必要な改善や見直しに留意しています。

現在の社会状況は、目まぐるしいスピードで変化しており、同時に、多様化・複雑化している市民ニーズへの対応も求められています。

このことから、行政評価の結果や社会状況等の変化を踏まえ、第七次前橋市総合計画の仕上げの3年間に向けて、推進計画部分に必要な見直しを行い、前橋市の将来都市像『新しい価値の創造都市・前橋』の実現に向けて、より効果的に各施策を推進していきます。

本市を取り巻く現状

❶人口減少と少子高齢化社会の進展

・合計特殊出生率の低迷
・団塊の世代の高齢化
→地域の特性を生かしつつ、自律的で持続的なまちづくりの必要性

❷経済環境の複雑化・高度化

・データ分析や人工知能（AI）、技術革新を駆使した効率化
・キャッシュレス決済の普及
→変化に適応するため、行政と地域の企業・団体が連携を図るなど、変化に強い体制づくりを進める必要性

❸安全・安心や健康に対する意識の高まり

・頻繁に発生する自然災害
・健康や衛生管理の重要性・感染症対策の日常化
→行政と地域住民が一体となったまちづくりや、市民の健康寿命の延伸、安心につながる施策の必要性

❹市民活動の必要性の高まり

・地域社会の人と人との繋がりの希薄化
・地域課題の多様化・複雑化
→行政をはじめ、市民、市民活動団体、大学、企業など様々な団体とこれまで以上に連携していく必要性

❺新型コロナウイルス感染症の拡大と生活様式の変容

・更なるデジタル化の加速
・効率的な働き方や柔軟な学び方
→コロナ禍を契機に人々のライフスタイルが変化する中で、経済活動、行政活動、地域活動などに求められる質を認識する必要性

❻独自財源の確保と行財政改革の推進

・社会保障関連経費の増加
・老朽化施設・インフラの修繕・更新費用の増加
→行財政改革を通じた歳出抑制と公共施設の適正配置等の必要性

❼多様性を受け入れる社会の実現

・障害者の活躍促進、外国人材との共存・共生
・人口減少等による労働力の減少
→異なる視点や価値観を尊重し、多様な人材が活躍できる環境の必要性

❽物価高騰の影響

・食料品やエネルギー価格の高騰
・消費抑制による地域経済への悪影響の懸念
→状況を注視しながら、国や県と連携した施策や物価高騰に対する対策の必要性

❾気候変動等の環境問題の変化

・気候変動、生物多様性の減少
・温室効果ガスの排出抑制、低炭素エネルギー導入
→市民、企業・団体、行政が協働し、環境負荷の少ないエネルギー選択等の必要性

人口の推移
【総人口の推移】

現在までの人口推移を見てみると、1965年には254,595人であった人口は、高度経済成長期を経ながら増加を続け、2000年には341,738人となりました※1。

総人口は、2005年以降、減少局面へと突入しており、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）の推計によれば、現状のまま人口減少が進んだ場合、2040年には294,833人、2060年には245,329人になると推計されています。

前橋の現状は？

1965年に254,595人だった本市の人口は、高度経済成長期を経ながら増加を続け、2000年には341,738人となりました。

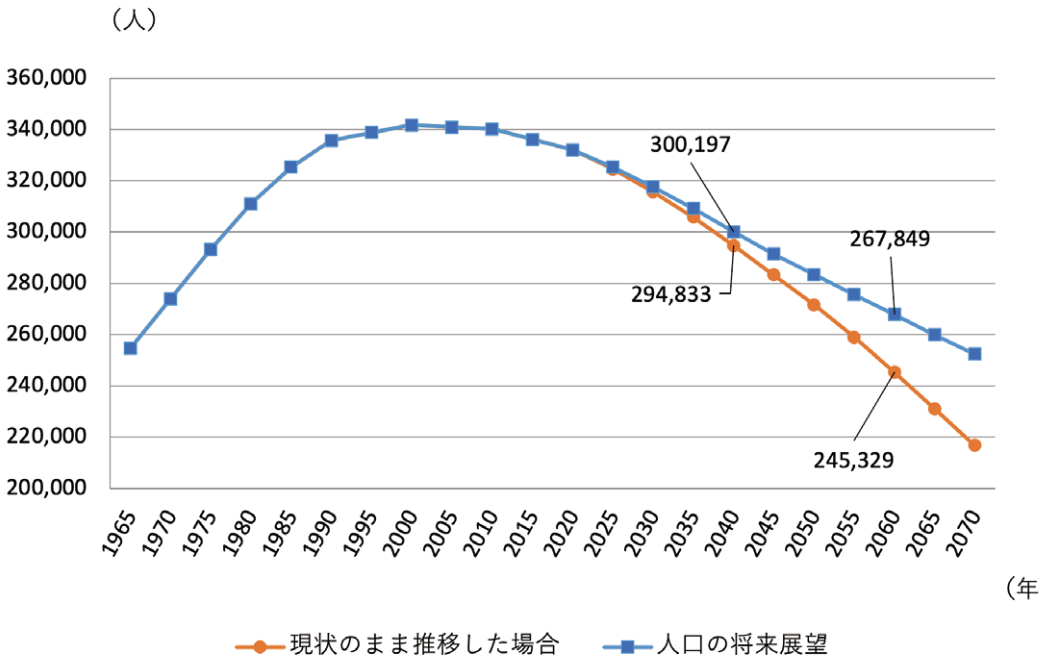
しかし、現在既に減少局面へ突入しており、2020年には332,149人となっています。

将来は？

このまま減少が進んだ場合、2040年には29万4千人、2060年には24万5千人になると推計されています。

目標

人口減少問題への対策として策定した第3期県都まえばし創生プランでは、人口減少幅を最小限に食い止め、2040年には30万人、2060年には26万7千人とすることを目標とします。



【2060年の人口】

約26万7千人（将来展望）

約24万5千人（現状のまま推移した場合）

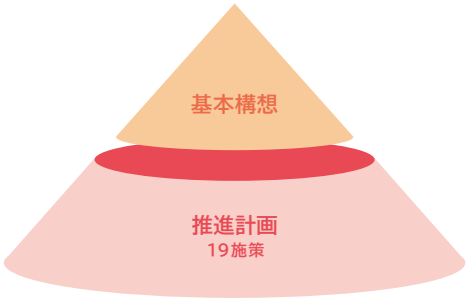
（2020年までは国勢調査の結果、2025年からは社人研による推計）

※1 市町村合併前の旧大胡町・宮城村・粕川村（2004年12月合併）、富士見村（2009年5月合併）の数値を含んだ実績

第七次前橋市総合計画は・・・

❶わかりやすく、実行性のある計画

第七次総合計画（2018~2027年度）



長期的な視点に立って、地域全体で共有していく基本理念や目指すべきまちのあり方を示す「基本構想」と、中・長期的に推進する重点テーマや施策を示す「推進計画」の２層構成とし、よりわかりやすく、実効性のある計画を目指しています。

❷時代の変化に的確に対応

2018年度～2020年度 → 第1期 → 見直し → **2021年度～2024年度** → 第2期 → 見直し → **2025年度～2027年度** → 第3期

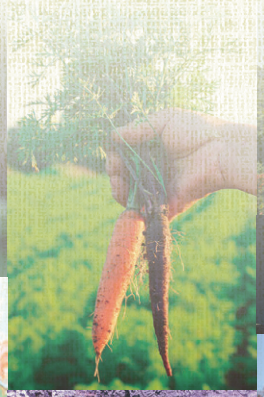
総合計画の計画期間は2018年度から2027年度までの10年間ですが、推進計画は、社会状況の変化等を考慮して３～４年ごとに見直します。

基本構想

ビジョン

『めぶく。～良いものが育つまち（Where good things grow）～』

前橋の未来に向かって、これまで大切にしてきたまちの誇りや可能性を受け継ぎ、磨き育て、新たな価値を生み出しながら、将来を担う子や孫たちの世代に未来への襷として繋いでいくことを、ここに暮らすすべての人で実現するという想いを込めて、『めぶく。～良いものが育つまち～』を地域全体で共有していくビジョンとして掲げます。



将来都市像〔目指すまちの姿〕

『新しい価値の創造都市・前橋』

『新しい価値の創造都市・前橋』を将来都市像に位置付け、「市民一人ひとりが個性と能力を生かし、個々に輝くことにより新しい前橋らしさを創造するまち」を目指すまちの姿とし、その実現に向けて行政は多様な市民の活動を支えていきます。
これからのまちづくりを進めるキーワードは「地域経営」です。

市民、企業・団体、行政それぞれが、「他人ごと」ではなく「自分ごと」として、地域の課題を捉え、自主的・自律的に、また連携して課題解決に取り組むことが重要であり、そのためには、それぞれの主体が共有できる将来のまちの姿を持つことが大切です。

基本構想

行動指針（市民、企業・団体、行政のそれぞれが大切にする姿勢）

さまざまな人たちが連携し、課題解決や目標達成に向けて取組を進めるには、何を基準に、何を拠り所に行動していくかが大切です。
そこで、３つの姿勢を行動指針として位置付けました。

行動指針1
【認め合い、支え合う】

まちが持つ力を最大限に発揮し、様々な地域課題を解決していくためには、年齢、性別、国籍、障害の有無、そして考え方などに関わらず、市民一人ひとりがお互いの個性や価値観を尊重し、『認め合い、支え合う』姿勢が大切です。

行動指針2
【つながり、創造する】

人と人が繋がることで、新たなアイデアが生まれることや可能性が広がることがあります。

まちをより良くしていくためには、市民一人ひとりが互いに『繋がり』、新しい発想で課題解決の手段を絶えず『創造する』姿勢が大切です。

行動指針3
【未来への責任を持つ】

私たちが暮らすこのまちの景色や風土は、先人たちが築き、守り、育ててきた財産です。

社会状況が変化していく中でも、こうしたまちの魅力を将来を担う子や孫たちの世代へしっかりと繋ぐためには未来への責任を持つ姿勢が大切です。

基本構想

まちづくりの柱

将来都市像の実現を目指して、 6つの柱に基づくまちづくりを進めます。

教育・人づくり

人は、前橋の未来を形づくる根幹です。

誰もが社会の中で豊かな心と健やかな身体を身に付けながら、夢に向かって前向きに成長できるまちにします。

人をはぐくむまちづくり

結婚・出産・子育て

人生の希望を実現させることは、誰にでも認められる権利です。

かけがえのない大切なパートナーや子どもと、喜びや楽しさを分かち合いたい人たちの希望を叶えるまちにします。

希望をかなえるまちづくり

健康・福祉

心身共に健康であること、そして、手を取り合い繋がりを持つことは、幸せに暮らしていくための鍵です。人々が支え合い、誰もが自分らしく健康に暮らせる共生のまちにします。

生涯活躍のまちづくり

産業振興

まちのにぎわいを生み出し、人々のいきいきとした暮らしを実現する源泉は他でもない地域産業です。

産業を地域に根付かせ、その活力を原動力にして前進するまちにします。

活気あふれるまちづくり

シティプロモーション

人口減少社会にあっても、都市として発展を遂げていくためには、都市の魅力を高めることが大切です。

地域のブランド力を強化し、人々の関心や愛着を高め、住んでみたい、住み続けたいまちにします。

魅力あふれるまちづくり

都市基盤

人々に安心と安全を提供するためには、快適な都市環境を柔軟に、無理なく維持していく必要があります。

都市インフラの計画的な整備と環境への配慮により、持続的に発展していくまちにします。

持続可能なまちづくり

基本構想

基本構想の全体イメージ図

政策方針

将来都市像

新しい価値の創造都市 前橋

- 教育・人づくり
- 都市基盤
- 結婚・出産・子育て
- シティプロモーション
- 健康・福祉
- 産業振興

全国的に人口減少・少子高齢化が進行する中、本市も例外ではありません。第七次前橋市総合計画や2023年度に策定した第3期県都まえばし創生プラン（前橋版人口ビジョン・総合戦略）に基づき数々の必要な施策に取り組み、人口減少幅を最小限に食い止めることにより、基本構想の最終年度である2027年度の人口の目標を概ね322,000人とします。

人口の目標

都市部においては、都市機能の効果的・効率的な集約化に努め、また、郊外部においては、自然環境の保全、一定の利便性確保やコミュニティの維持に加え、営農環境と調和した集落形成に努めます。

都市的土地利用と自然的土地利用の適正な配置の組合せにより、調和の取れた土地利用を推進します。

土地利用の方針

行動	指針
認め合い、	支え合う
つながり、	創造する
未来への	責任を持つ

第３期推進計画への見直しにあたって

2025年度から2027年度までの３年間を計画期間とする第３期推進計画の策定にあたっては、2021年度改訂版の策定から社会状況の変化や、これまでの取組進捗状況を考慮し、まちづくりの方向性や重点テーマ、重点施策の最終的な姿を改めて確認し、重点事業等の見直しを講じています。

社会状況の変化への対応

今回の改訂では主に、「未来への投資（こども政策）」、「生産性・効率性の向上」、「共生社会の推進（障害の有無、LGBTQ、外国人等）」、そして、「行財政運営の最適化」という４つの視点を踏まえて見直しを行いました。

見直しの視点

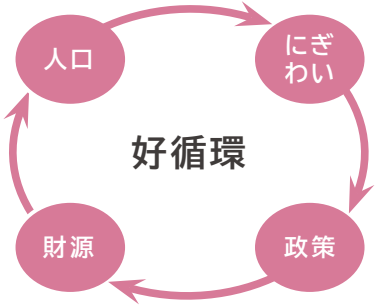
No.	見直しの視点（社会状況の変化等）	主な取組	主に関連するまちづくりの方向性
1	**未来への投資**	・教育の質の向上 ・子育て施策の強化	第1章　人をはぐくむまちづくり 第2章　希望をかなえるまちづくり
2	**生産性・効率性の向上**	・アフターコロナ ・社会経済のデジタル化 ・多様な働き方の推進	第4章　活気あふれるまちづくり 第6章　持続可能なまちづくり
3	**共生社会の推進**	・認め合い、支え合う社会の推進 ・多文化共生社会の推進	第1章　人をはぐくむまちづくり 第3章　生涯活躍のまちづくり 第5章　魅力あふれるまちづくり
4	**行財政運営の最適化**	・ファシリティマネジメント※1	第6章　持続可能なまちづくり

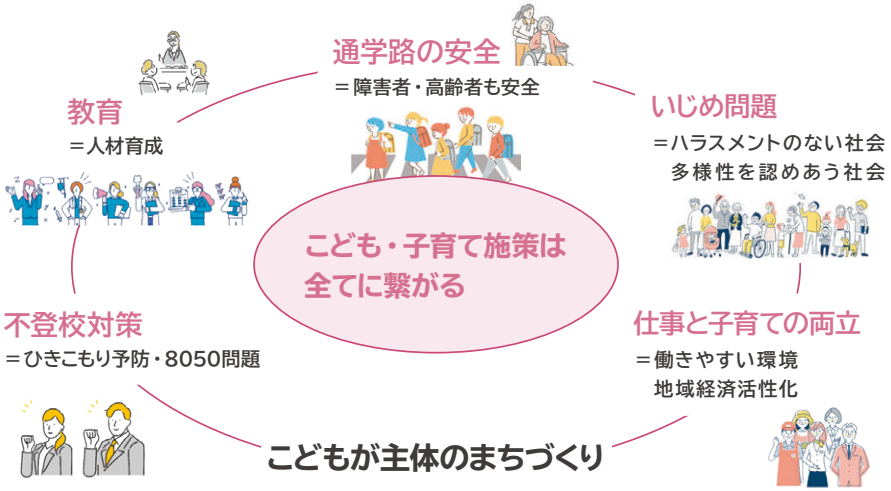
※1 ファシリティマネジメント…土地、建物等について、その供給、品質、財務の最適化を図り、効率的かつ効果的に活用していくための総合的な施設の管理手法

なぜこどもなのか

こども・子育て政策
＝ 未来への投資

- 経済活動の活性化
- 労働供給
- 地域・社会の担い手増加
- 社会保障の安定





第３期推進計画への見直しにあたって

市民ニーズの把握

市民アンケート

本市の暮らしやすさ、施策に対する満足度と重要度、市民の意識や要望などを把握し、市民との協働によるまちづくりを推進するために15歳以上の市民5,000人（無作為抽出）と、本市との包括連携協定等を締結している企業・大学に所属している市民500人を対象に2023年度に市民アンケートを実施しました（有効回答3,052人（郵送2,059人、WEB993人）。
※2016年度（有効回答2,905人）、2019年度（有効回答2,715人）

Q まちの住みやすさに関する重要度・満足度（2023年度）

重要度：全21項目のうち最も重要としているもの（３つ）上位10項目
満足度：「とても満足」、「満足」の回答割合

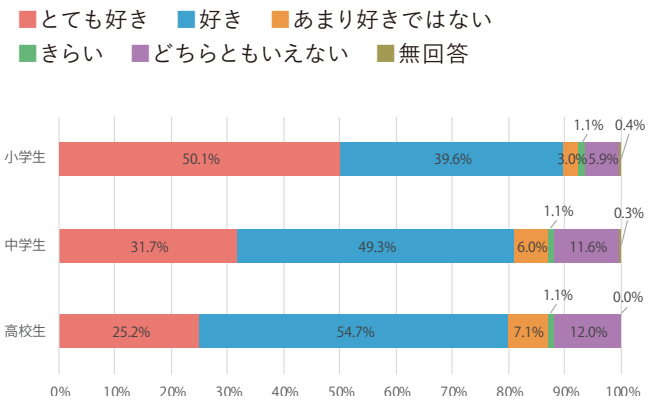
項目	重要度	満足度
災害に強い	13.1%	97.1%
まちの治安が良い	12.1%	93.4%
医療が充実している	11.8%	93.3%
安全で新鮮な地元の農畜産物が手に入る	8.8%	98.5%
交通の便が良い	6.5%	43.7%
都市基盤（道路、上下水道など）が整備されている	5.8%	83.3%
安心して子どもを産み、育てられる	5.6%	78.6%
観光・スポーツが気軽に楽しめる場所がある	4.2%	81.8%
地域に愛着を持つ市民が多い	3.5%	95.9%
子育てしながら働ける環境がある	3.3%	66.8%

詳細はこちらから

こども・若者意識調査

すべてのこども、若者たちが安心して健やかに成長できる前橋市の実現に向けて、こども施策の基礎資料とするため、小学生4,831人（5,6年生全員）、中学生4,878人（1,3年生全員）と高校生1,500人（無作為抽出）の計11,209人を対象に、2024年度にアンケート調査を実施しました（有効回答：2,745人）。

Q あなたは、今住んでいるところ（前橋市）は好きですか



詳細はこちらから

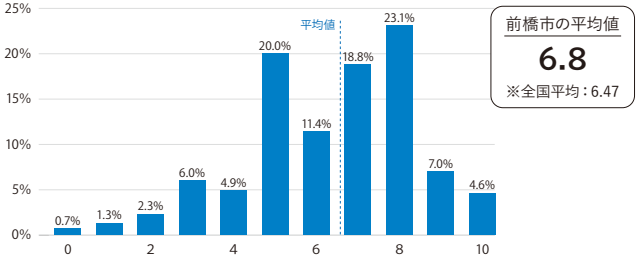
ウェルビーイング（地域幸福度）指標

ウェルビーイング指標を活用して市民の「暮らしやすさ」や「幸福度」を可視化するため、無作為に抽出した20代から80代の市民2,000人を対象に2023年度に市民アンケートを実施しました（有効回答706人）。

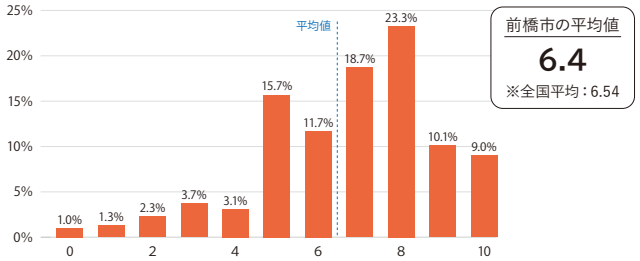
総合指標

「今あなたはどの程度幸せですか?」「あなたが住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか?」といった5つの設問に「とても幸せ」から「とても不幸」までといった（0～10の）11段階あるいは5段階評価で回答

【生活満足度】



【幸福度】



詳細はこちらから

改訂のポイント

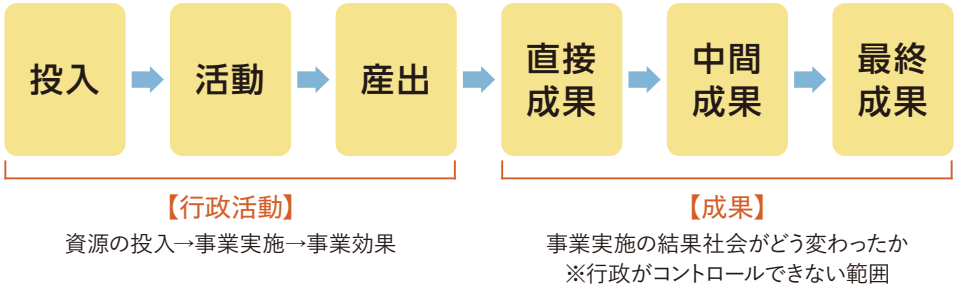
バックキャスティングによる改訂

事業が、目指している目的に到達させるための手段として、きちんと役立っているか、論理に飛躍がないかを確認するために有効であることから、今回このロジックモデルを活用した改訂を行いました。

ロジックモデルとは

各事業や施策における目的と手段との結びつきを因果関係により、明示化したもの

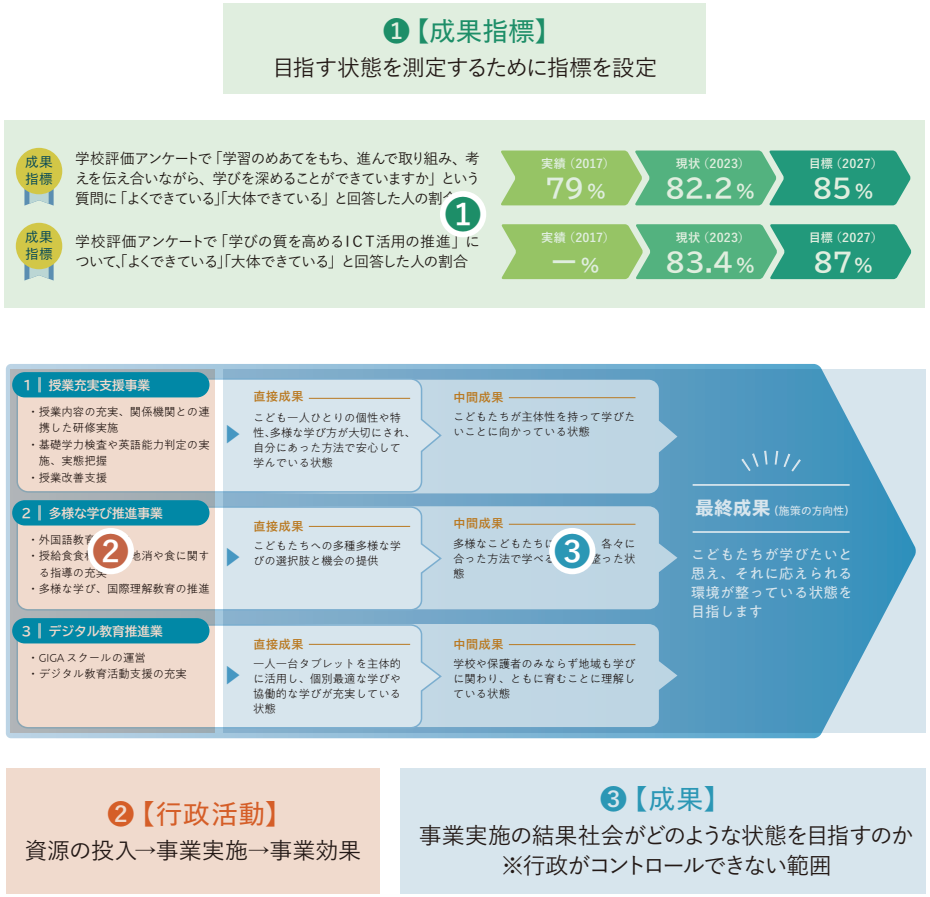
●構想要素、イメージ



ポイント

- **事業（目的と手段）を可視化**
  コミュニケーションツールとしても有効（市民と担当者、議会と行政など）
- **成果測定や指標の設定、改善を容易に**
  目的や手段が整理されたうえで、どの効果を測定するかが設定しやすい
- **事業の属人化を防ぐ手段に**
  目的の引継ぎが可能となり、所属や所属間で共有可能

〈各重点事業の事業内容と施策の方向性（最終成果）を可視化〉



改訂のポイント

改訂の主な内容

❶【重点施策：基本維持することを前提】

3-1地域包括ケア社会の推進
→「共生社会の推進」へ変更

❷【重点施策】51重点事業→45重点事業

・事業完了による廃止（CCRC事業）
・事業統合（最終成果の重複、コロナ5類移行等）
※「多様性社会の推進」事業を新たに位置づけ

❸【成果指標】
主観指標（市民の満足度等）の視点を強化

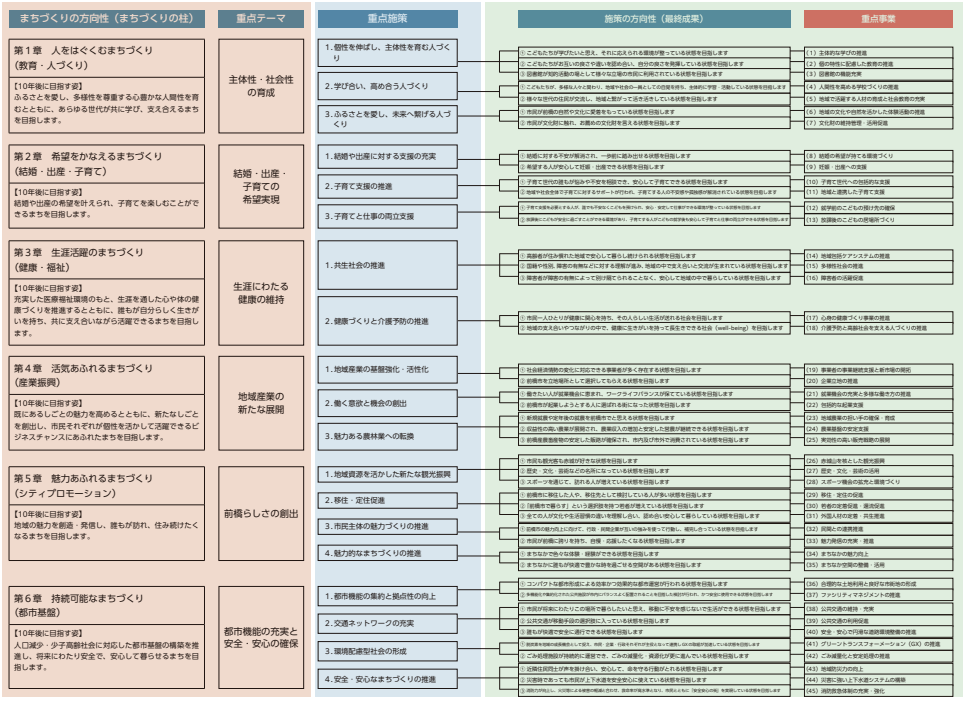
【成果指標】	第2期推進計画	第3期推進計画
客観指標	74	74
主観指標	11	15
well-being指標		15
	85	105

❹推進計画部分に「デジタル技術の活用で取組全般を下支え」という項目を追加

前橋市DX推進計画に掲げるビジョン「デジタル技術とデータ活用を推進し、住民本位の行政及び地域社会を実現する」のもと、重点事業の取組を深化・加速化し、市民の利便性・満足度の向上を目指します。

【基本構想：変更なし】
6つの柱を維持

❶【重点施策：基本維持することを前提】
3-1地域包括ケア社会の推進→新たに「共生社会の推進」へ変更



❷【施策の方向性】
全庁作業で作成したロジックモデルの最終成果（あるべき姿）を設定

【重点事業】
事業数：第2期推進計画/51重点事業 → 第3期推進計画/45重点事業
行政評価結果や有識者意見、ロジックモデル作成作業の中で、目指す姿が重複するものなどを主に統合することで事業を見直し
※「多様性社会の推進」事業を新たに位置づけ

▼アイコン表示

Well Being
「暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる」について「非常にあてはまる」「ある程度当てはまる」と答えた人の割合

実績（2017）	現状（2023）	目標（2027）
ー%	31%	35%

成果指標のうち、ウェルビーイング指標に基づく主観アンケート項目を補足指標として追加

第1章　人をはぐくむまちづくり（教育・人づくり）

重点テーマ　主体性・社会性の育成

重点施策01　個性を伸ばし、主体性を育む人づくり

【目標】一人ひとりの個性や感性を伸ばし、主体性を育みます

❶こどもたちが学びたいと思え、それに応えられる環境が整っている状態を目指します

❷こどもたちが、自分の良さを発揮している状態を目指します Point

❸図書館が知的活動の場として様々な立場の市民に利用されている状態を目指します

重点施策02　学び合い、高め合う人づくり

【目標】多様な集団の中で社会性や、認め合い支え合う心を育み、地域と協働してよりよい社会を創造する力を育みます

❹こどもたちが、多様な人々と関わり、地域や社会の一員としての自覚を持ち、主体的に学習・活動している状態を目指します

❺様々な世代の住民が交流し、地域と繋がって活き活きしている状態を目指します Point

重点施策03　ふるさとを愛し、未来へ繋げる人づくり

【目標】前橋の自然や文化への理解を深め、愛情や誇りを育むとともに、前橋の歴史・文化を次世代に継承します

❻市民が前橋の自然や文化に愛着をもっている状態を目指します

❼市民が文化財に触れ、お薦めの文化財を言える状態を目指します

改訂の視点

- 視点１　未来への投資
- 視点２　生産性 効率性
- 視点３　共生社会の推進
- 視点４　行財政運営の最適化

Point（重点❷）

個の特性に配慮した教育の推進（一部統合）

・第２期推進計画で別の重点事業だった青少年支援事業（不登校支援、ヤングケアラー等）を統合し、こどもたちの特性に配慮した支援の取組を集約

Point（重点❺）

地域で活躍する人材の育成と社会教育の充実（新要素追加）

・社会教育人材育成事業として「明寿大学」の取組を新たに位置づけ

・地区公民館、コミュニティセンターを拠点とした社会教育推進

※●数字は重点事業No.を表しています。

第２章　希望をかなえるまちづくり（結婚・出産・子育て）

重点テーマ　結婚・出産・子育ての希望実現

重点施策01　結婚や出産に対する支援の充実

【目標】結婚や出産を希望する市民一人ひとりが諦めることなく取り組める環境をつくることにより、まちに家庭を築くことの幸せをもたらします

❽結婚に対する不安が解消され、一歩前に踏み出せる状態を目指します

❾希望する人が安心して妊娠・出産できる状態を目指します Point

重点施策02　子育て支援の推進

【目標】社会情勢の変化に伴う子育ての不安や悩みを解消することで、誰もが安心して子育てに取組めるまちを実現します

❿子育て世代の誰もが悩みや不安を相談でき、安心して子育てできる状態を目指します

⓫地域や社会全体で子育てに対するサポートが行われ､子育てする人の不安感や孤独感が解消されている状態を目指します Point

重点施策03　子育てと仕事の両立支援

【目標】預けたいときに預けることができる体制や、こどもが安全に過ごすことができる地域社会を実現することで、子育てと仕事の両立を可能にします

⓬子育て支援を必要とする人が、誰でも不安なくこどもを預けられ、安心・安定して仕事ができる環境が整っている状態を目指します

⓭放課後にこどもが安全に過ごすことができる環境があり、子育てする人がこどもの就学後も安心して子育てと仕事の両立ができる状態を目指します

※●数字は重点事業No.を表しています。

改訂の視点

- 視点１　未来への投資
- 視点２　生産性 効率性
- 視点３　共生社会の推進
- 視点４　行財政運営の最適化

Point（重点❾）

妊娠・出産への支援（個別事業の再編）

・若年層へのプレコンセプションケアによる正しい理解促進

Point（重点⓫）

地域と連携した子育て支援（新要素追加）

・施設だけでなく、人材も含めての地域連携を志向して名称変更

・こども誰でも通園制度の取組を追加

第３章　生涯活躍のまちづくり（健康・福祉）

重点テーマ　生涯にわたる健康の維持

重点施策01　共生社会の推進

【目標】地域内の保健・医療・福祉のサービスを一体的に提供することで、一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らし続け、生涯にわたって活躍できる希望をもたらします

⓮高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる状態を目指します

⓯国籍や性別、障害の有無などに対する理解が進み、地域の中で支え合いと交流が生まれている状態を目指します Point

⓰障害者が障害の有無によって別け隔てられることなく、安心して地域の中で暮らしている状態を目指します

重点施策02　健康づくりと介護予防の推進

【目標】予防から治療までの支援を切れ目なく行い、一人ひとりの心身の健康が守られている暮らしをもたらします

⓱市民一人ひとりが健康に関心を持ち、その人らしい生活が送れる社会を目指します

⓲地域の支え合いやつながりの中で、健康に生きがいを持って長生きできる社会（well-being）を目指します Point

※●数字は重点事業No.を表しています。

改訂の視点

視点１ 未来への投資	視点２ 生産性 効率性
視点３ 共生社会の推進	視点４ 行財政運営の最適化

Point（重点⓯）

多様性社会の推進　●新設

・多様性理解促進事業を新規設定

・相談支援連携事業を新規設定

Point（重点⓲）

介護予防と高齢社会を支える人づくりの推進（事業内容の充実）

・フレイル予防プログラムや介護予防体操の実施で、介護を必要としない高齢者増加

・介護や認知症に関する基礎知識を持つ人の増加

第４章　活気あふれるまちづくり（産業振興）

重点テーマ　地域産業の新たな展開

重点施策01　地域産業の基盤強化・活性化

【目標】多様で魅力的な産業や雇用の場を生み出す環境を整備し、まちににぎわいと活力をもたらします

⑲社会経済情勢の変化に対応できる事業者が多く存在する状態を目指します

⑳前橋市を立地場所として選択してもらえる状態を目指します

重点施策02　働く意欲と機会の創出

【目標】多様な人材がそれぞれのライフスタイルの中で能力を発揮できるとともに、新しいビジネスに挑戦できる社会を実現します

㉑働きたい人が就業機会に恵まれ、在職者のワークライフバランスが保てている状態を目指します Point

㉒前橋市が起業しようとする人に選ばれる街になった状態を目指します

重点施策03　魅力ある農林業への転換

【目標】農業経営の安定や農業所得を向上させ、国内外での競争力を高めることにより、魅力ある農林業への転換を図ります

㉓新規就農や定年後の就農を前橋市でと思える状態を目指します Point

㉔収益性の高い農業が展開され、農業収入の増加と安定した営農が継続できる状態を目指します

㉕前橋産農畜産物の安定した販路が確保され、市内及び市外で消費されている状態を目指します

改訂の視点

視点１ 未来への投資	視点２ 生産性 効率性
視点３ 共生社会の推進	視点４ 行財政運営の最適化

Point（重点㉑）

就業機会の充実と多様な働き方の推進（統合）

・中小企業採用力向上サポート事業を追加
・仕事と育児・介護の両立支援セミナーを追加
・女性活躍推進在宅セミナーを追加

Point（重点㉓）

地域農業の担い手の確保・育成

・農機シェアリングサービス補助金を追加
・セカンドキャリア就農支援事業補助金を追加

※●数字は重点事業No.を表しています。

第5章　魅力あふれるまちづくり（シティプロモーション）

重点テーマ　前橋らしさの創出

重点施策01　地域資源を活かした新たな観光振興

【目標】前橋の持つ地域資源を活用した観光・歴史・文化・芸術・スポーツ振興を推進し、まちににぎわいをもたらします

㉖市民も観光客も赤城が好きな状態を目指します
㉗歴史・文化・芸術などの名所になっている状態を目指します
㉘スポーツを通じて、訪れる人が増えている状態を目指します Point

重点施策02　移住・定住促進

【目標】移住・定住に向けた支援・受入体制の強化により、活気あるまちづくりを進めます

㉙前橋市に移住した人や、移住先として検討している人が多い状態を目指します
㉚「前橋市で暮らす」という選択肢を持つ若者が増えている状態を目指します Point
㉛全ての人が文化や生活習慣の違いを理解し合い、認め合い安心して暮らしている状態を目指します

重点施策03　市民主体の魅力づくりの推進

【目標】前橋市の魅力を高める取組や発信を積極的に行い、地域に対する市民の誇りや愛着を向上させます

㉜前橋市の魅力向上に向けて、行政・民間企業が互いの強みを使って行動し、補完し合っている状態を目指します
㉝市民が前橋に誇りを持ち、自慢・応援したくなる状態を目指します

重点施策04　魅力的なまちづくりの推進

【目標】市民と共に考え、地域の個性を活かした市街地の整備を推進することにより、居心地がよく歩きたくなるまちづくりを進めます

㉞まちなかで色々な体験・経験ができる状態を目指します
㉟まちなかに誰もが快適で豊かな時を過ごせる空間がある状態を目指します

※●数字は重点事業No.を表しています。

改訂の視点

- 視点1　未来への投資
- 視点2　生産性 効率性
- 視点3　共生社会の推進
- 視点4　行財政運営の最適化

Point（重点㉘）

スポーツ機会の拡充と環境づくり

・名称変更。さまざまな角度からスポーツ機会を創出
・大会開催だけでなく、する・みる・ささえるスポーツ振興を推進
・スポーツ施設整備要素を追加

Point（重点㉚）

若者の定着・還流促進

・若者の定着と、将来的な還流の両方に資する、種まき事業を主眼
・こどもや若者のまちづくりへの参画スキームを構築し、まちへの愛着を育む

第６章　持続可能なまちづくり（都市基盤）

重点テーマ　都市機能の充実と安全・安心の確保

重点施策01　都市機能の集約と拠点性の向上

【目標】コンパクトで機能的なまちづくりを進めることで、快適で住みやすいまちを目指します

㊱コンパクトな都市形成による効率的かつ効果的な都市運営が行われる状態を目指します

㊲多機能化や集約化された公共施設が市内にバランスよく配置されることを目指した検討が行われ、かつ安全に使用できる状態を目指します

重点施策02　交通ネットワークの充実

【目標】交通環境を整備し、市内外を様々な手段で安全で快適に移動できる生活を実現します

㊳市民が将来にわたりこの場所で暮らしたいと思え、移動に不安を感じないで生活ができる状態を目指します

㊴公共交通が移動手段の選択肢に入っている状態を目指します Point

㊵誰もが快適で安全に通行できる状態を目指します

重点施策03　環境配慮型社会の形成

【目標】「2050ゼロカーボンシティまえばし」に向けた温室効果ガスの削減、環境負荷を低減した循環型社会の実現により、恵み豊かな自然を活かした良好な生活環境を構築します

㊶脱炭素を地域の成長機会として捉え、市民・企業・行政それぞれが主役となって連携しGXの取組が加速している状態を目指します

㊷ごみ処理施設が持続的に運営でき、ごみの減量化・資源化が更に進んでいる状態を目指します

重点施策04　安全・安心なまちづくりの推進

【目標】市民・地域・行政が一体となって災害対策を充実させることで、安全で安心なまちを実現します

㊸近隣住民同士が声を掛け合い、安心して、命を守る行動がとれる状態を目指します Point

㊹災害時であっても市民が上下水道を安全安心に使えている状態を目指します

㊺消防力が向上し、火災等による被害の軽減と合わせ、救命率が高水準となり、市民とともに「安全安心の街」を実現している状態を目指します

※●数字は重点事業No.を表しています。

改訂の視点

- 視点１　未来への投資
- 視点２　生産性 効率性
- 視点３　共生社会の推進
- 視点４　行財政運営の最適化

Point（重点㊴）

公共交通の利用促進

・利用者側に焦点を当て、公共交通の利用促進を図る
・意識的に公共交通を移動手段として選択できるよう情報提供や利便性向上を図る
・児童・生徒向けの乗り方教室を新たに位置付け

Point（重点㊸）

地域防災力の向上

・防災体制構築事業を新たに位置付け、実効性のある関係機関との連携体制の構築を図る
・成果指標を新たに「自主防災会の活動率」とし、災害時の地域による支援の実現を目指す

計画の推進に向けて

01 計画の進行管理

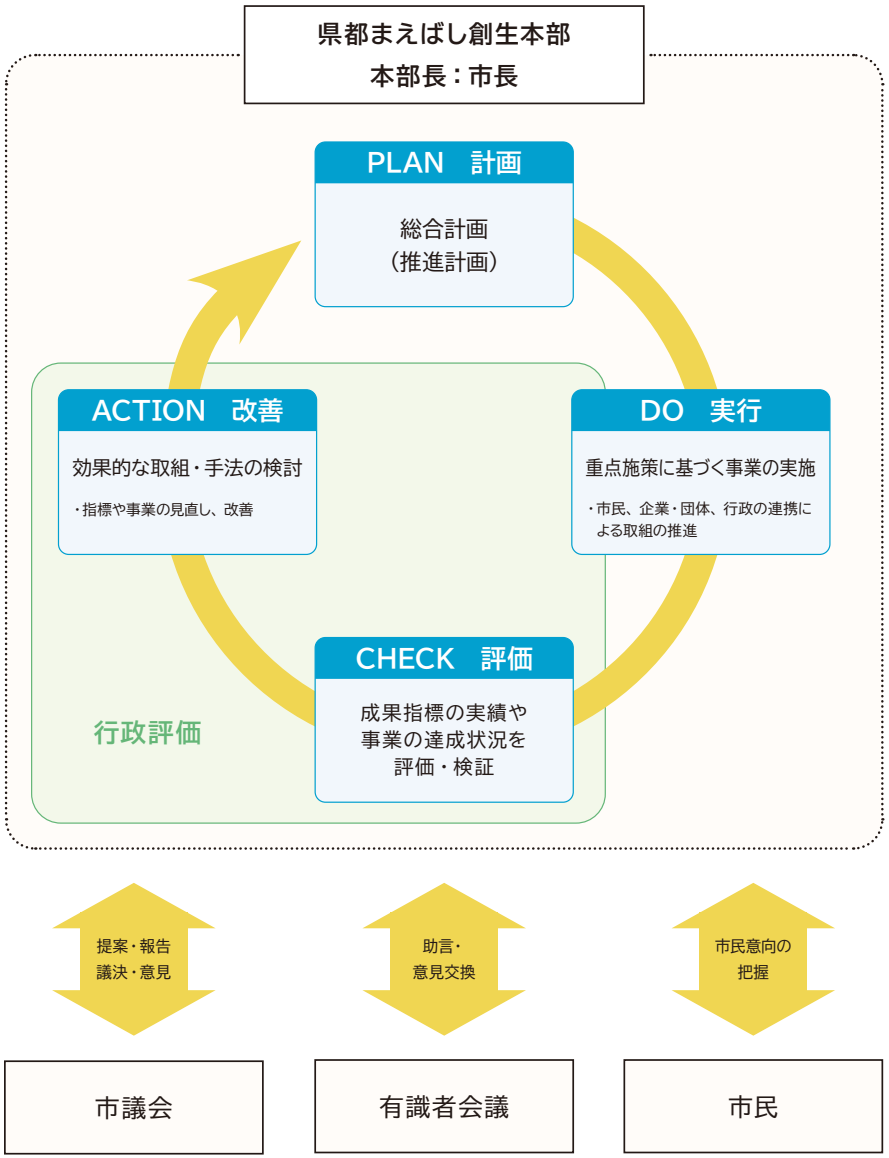
計画の実効性を高めるためには、施策の成果を客観的に評価し、取組や手法を改善していくことが求められます。

このことから、本計画では、計画（PLAN）→実行（DO）→評価（CHECK）→改善（ACTION）という、いわゆるPDCA サイクルによる進行管理を行います。

具体的には、行政評価を活用し、重点施策ごとに設定した成果指標の実績や各施策のもとで実施する重点事業の取組状況等を評価・検証します。また、社会情勢の変化を踏まえつつ、ウェルビーイング指標を用いた評価手法や、地域経済に関するデータ等も活用し、より高い成果を上げるための改善策を講じることで、計画を着実に推進します。

02 計画の推進体制

本市では、「県都まえばし創生本部」を設置し、地方創生・人口減少対策に関する庁内横断的な取組や第七次前橋市総合計画の策定について議論をしてきました。

引き続き、この推進体制のもと、政策方針に掲げる将来都市像の実現に向けて、本計画の積極的な推進を図ります。

PDCAサイクルによる進行管理と推進体制のイメージ図